

変形性膝関節症

人工関節置換術における 最小侵襲手術のバイオエア

桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目
011-6333-3636

<http://www.dr-azumanet>

東裕隆 院長

◎あずま・ひろたか/1992年北大医学部卒業
市立札幌病院救急部勤務
93年北大医学部整形外科
入局、2000年カルフリ
1大学(カナダ)留学。03
年博士号取得、市立札幌
病院整形外科副院長を
経て、07年に開院。09年札幌
人工関節センター開設、日
本整形外科学会専門医な
ど多数の資格を有する。



JR桑園駅から徒歩4分、無料送迎
バスも運行



従来の手術では20〜30分
の切開が必要だったが、M

ISでは5〜9分と非常に小さな傷で手術が可能。

整容面でのメリットに加え、筋肉や腱の切開も最小限で行うため、術後の回復が早く、入院期間

も2〜3週間で済む。

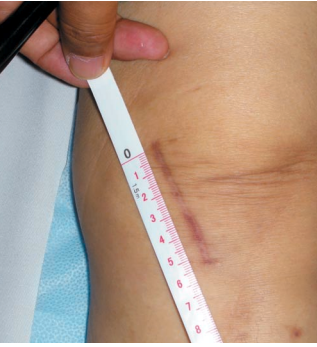
患者の利点は大きいですが、膝関節は複数の靭帯がつながっているため、小さな切開部で手術するには高度な技量が要求される。東院長は、自ら手術器械を開発し改良を重ね、常に精度の高

い手術を行っている。
「膝の痛みで悩みを抱えている方を、一人でも多く救えるようにMISを全国に広めていきたい」と語る東院長。その言葉通り、MISを習得しようとする全国から見学に訪れる整形外科医に、改良を重ねた手術器械による卓越した手術テクニックを実践し指導を行っている。

膝関節疾患全般に精通する東院長は、スキーやスノーボード、バスケットボールなどのプレー中に受傷することが多い前十字靭帯損傷や、つま先が細い靴を履く女性に多い外反母趾などの治療や手術も数多く手掛けている。また、靭帯再建術やアキレス腱断裂、骨折の治療にも可能な限りMISを実施。札幌で開催されたFISワールドカップのオフィシャル・スポーツドクターを務めた実績もあるなど、スポーツ認定医としても活躍している。

60歳を越えると半数以上が経験すると言われ、発症者の約90%を女性が占めるという変形性膝関節症。加齢などが原因で、膝のクッションの役割を果たす軟骨や半月板がすり減り、重症化すると骨まで削れてしまつたため、痛みで歩行も困難になる。超高齢化社会となつた近年、増加の一途をたどっている。

「患者さんの身体の負担を考慮し、保存療法を最優先にしています。筋力訓練や消炎鎮痛剤の使用、ヒアル



ロン酸の注射、日常生活動作の指導などを行い、それでも効果が無く、日常生活に支障をきたす患者さんには、MIS（最小侵襲手術）による人工関節置換術を行います」と話す東裕隆院長。患者の負担を減らすこ

MISでの手術跡は
わずか5〜9分

とを重視した治療や手術を実践し、日本でいち早くMISを取り入れた膝関節疾患のスペシャリストである。人工関節置換術の症例数580例超の内95%以上でMISを実施、全国屈指の症例数を誇る。